

誇りとやりがい育成が 職員不祥事を止める!!

創政クラブ
倉田博之



問

職員不祥事のたびに職責の自覚や綱紀粛正などが掲げられるが、より根本的な対策は職員個々の誇りや喜び・大きなやりがいを今以上に育てていくことのように思う。風通しの良い職場や自己を承認される環境が大切で、その角度から進める内部統制を、市幹部の重要な使命として自覚すべきではないのか。

答

日頃からのコミュニケーションを大切にし、職員の誇りや充実感を引き出す指導と共に、わずかなサインを見逃さない信頼関係や相談しやすい職場環境を構築していく。チーム意識も不祥事の防止につながる。



市役所は本当に 市民の役に立つ所か?

創政クラブ
藤江久子



問

市の施策には「市民の役に立つ施策」との展望が必要だが先のことを読んで施行しているのか。例えば、入場料無料の「まちの博物館」は民間の有料観光施設の経営を圧迫している。また市長が観光施策だけに力を入れる影響で域外資本のホテルが乱立している。その影響もあり介護等の人手不足が加速している。市長がやりたいことだけをやるという今の政策のあり方で良いのか。

答

「まちの博物館」を入場無料にしているのは観光客の周遊を目的に無料開放としている。また、人材不足に対しては対応していく。



まちの博物館

倒壊の恐れがあるブロック 塀等の撤去を促進せよ

高山市議会公明党
山腰恵一



問

昨年ブロック塀の倒壊により女兒が下敷きになり亡くなった。この悲劇を繰り返さないためにも倒壊の恐れがあるブロック塀等は撤去しなければならない。市では昨年10月から補助制度を創設しているがブロック塀の撤去状況は。また、撤去をどう推進するのか。

答

ブロック塀等の相談件数は47件であり、補助制度は4件利用がある。実施件数に結び付かない理由として、緊急性を感じない、工事の時期や負担について検討しているなどの声がある。制度周知に努め、通学路沿いなどエリア単位で改善できないか考える。



倒壊したブロック塀

通学区の見直し

高山市議会公明党
中 箴 博 之



問

「小学校区と中学校区のねじれ」を含め、小・中学校の適正規模・適正配置・通学区について、市の現状認識と今後の方針は。

答

高山市教育振興会議で2年間議論され、昨年12月に報告された提言をもとに、通学区域審議会やまちづくり協議会、小・中学校校長会と協議し基本的な方針を定めたい。

一朝一夕に見直すことは難しいが、学校を核とした地域づくりという視点をもちつつ、子どもたちにとって望ましい通学区について議論を深めたい。

